

令和 4 年度の委員会運営方法について

1 付議事件

オープンイノベーション等による企業支援や誘致促進、グローバル都市の実現、文化芸術創造都市や観光・MICEの推進等に関すること。

2 市会運営委員会（平成24年5月8日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項

- ・付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
- ・委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

3 令和 4 年度 新たな都市活力推進特別委員会 調査・研究テーマ案について

- ・調査・研究テーマ（案）

「横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現について」

- ・選定理由

長期化するコロナ禍や緊迫する国際情勢、多方面にわたりグローバル化が進展する現代の中で、国際都市としての役割の重要性が再認識されており、都心臨海部における都市空間の優位性と文化芸術の創造性を活かした横浜らしい魅力の創出と発信が今まで以上に求められている。

そのために、国際社会におけるコロナ禍からの回復を見据えつつ、世界から訪れ、居住し、ビジネスに携わる人々が快適に滞在・生活できる多様性と包摂性に富んだ都市づくりや、世界で活躍するグローバル人材の育成、オープンイノベーションの促進、国内外からの誘客促進・MICE開催支援の取り組みを強化していく必要がある。

また、市内の既存施設や歴史的建造物の存在価値を再評価しながら、最先端技術を活用した先進的なまちづくりの取り組みにも注力していくことも重要である。

当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多方面に調査、研究を行うこととした。

【令和3年度】「横浜における持続可能な観光都市の在り方」について

<選定理由>

昨今の世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年（1月～12月）の本市における観光集客人員及び観光消費額は、例年と比較して大きく減少した。また、自由な人の往来が制限される中、海外や国内遠方からの来街者の割合は縮小している。この状況下において、本市の観光事業を持続可能なものとして今後に繋げていくためには、近隣を対象としたマイクロツーリズムの推進や他都市との連携等によって、本市の観光事業の基盤を確保しつつ、横浜の様々な魅力を掘り起こし、発信することでアフターコロナの観光需要に備えていくことが重要である。

また、本市の観光振興による発展を将来まで見据え、訪問客、産業、環境、受入地域の需要に適合しつつ、未来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光を実現していくことが重要になる。そこで、令和3年度は、これら様々な側面から、横浜における持続可能な観光都市の在り方について調査・研究することとしたい。

【令和2年度】感染症等を契機とした新たな時代の都市活力の在り方

<選定理由>

横浜市では、これまでに第7回アフリカ開発会議の開催やラグビーワールドカップ2019[™]などの機会を捉えながら、魅力ある観光資源を活用した観光・MICE施策により、横浜らしい都市の活力を生み出してきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、感染症拡大防止の観点から世界規模での移動制限をはじめ、身近なところでは店舗や施設の利用制限など、自由な移動と消費活動が難しくなった。特に、観光産業は宿泊業や飲食業など関連する産業を含め、大きな痛手を受けている。

今後、新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、コロナ禍前と変わらない水準まで産業が回復したとしても、再び感染症の流行等の影響を受け、同様の被害を受ける可能性は否定できない。この時代に生きる私たちは、今回のコロナ禍を教訓とし、これからの時代を見据え、既存の常識にとらわれない自由な発想で感染症の流行等があったとしても力強く成長していく都市活力の在り方を検討していく必要がある。

【令和元年度】人や企業が躍動する横浜の魅力醸成に関する取り組みについて

<選定理由>

本市が国内外を問わず多くの人を惹き付ける都市であり続けるためには、たゆまぬ魅力の醸成が必要となっている。都市の魅力となる要素はさまざまであるが、その都市で活躍する人や企業という財産は大切な要素であると言える。今後、本市の魅力をさらに醸成するためには、改めて、それら人や企業の魅力財産の深堀りを行うとともに、躍動するための新たな支援や国内外への魅力の発信等、取り組みが必要であると考えます。

当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行うこととした。

【平成30年度】横浜における魅力ある都市活力の創造について

<選定理由>

技術革新や価値観の多様化が進む中で、横浜市が持続的な成長・発展を続け、存在感を発揮する都市であり続けるためには、臨海部や内陸部の新たな価値の創造など、人や企業を引きつける魅力的なまちであり続けることが重要になっている。

都市活力を推進するエンジンを考えるに当たっては、文化芸術や観光・MICEにとどまらず、オープンイノベーションの推進による革新的な研究開発支援や起業・創業の促進、企業誘致の推進、産業拠点の強化など、新たな市場分野を開拓し、雇用やイノベーションを生み出す取り組みが必要と考える。

当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行うこととした。

【平成29年度】横浜の魅力をつなぐ・拡げる取り組みについて

<選定理由>

横浜市はラグビーワールドカップ2019[™]及び東京2020オリンピック・パラリンピックを控え、国内外からの来浜客をもてなし、横浜の魅力を国内外に発信していく取り組みがさらに重要になっている。そのため、この好機を捉え、横浜が持つ多くの魅力をつなぐことにより、さらに大きな魅力を生み出し、それを効果的にアピールし、横浜の魅力を大きく広げていくことが必要である。そのことにより、さらに多くのお客様に横浜が選ばれ、訪れた方々に御満足いただくことが重要であり、さらには五輪終了後にも何度でも横浜に足を運びたい都市となるよう、横浜の魅力を持続的なものとする取り組みが必要と考える。当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査・研究を行うこととした。